

にっせき ぬくもり通信

<http://www.matsuyama.jrc.or.jp/>

Vol.13

2008年4月1日



編集・発行 / 松山赤十字病院

〒790-8524 松山市文京町1番地

TEL089-924-1111 FAX089-922-6892

《基本理念》人道・博愛・奉仕の赤十字精神に基づき、医療を通じて、地域社会に貢献します。

胃腸センターの紹介



松山赤十字病院 第一消化器科部長

小林 広幸

胃腸センターは、消化器（食道から直腸までの消化管と肝臓・胆嚢・膵臓などの実質臓器）のうち、食物が通過する消化管を専門に診療しています。消化管の中で『胃と腸』は最も病気の多い部位であり、患者の皆様には診療内容がわかり易い科であろうと思います。もちろん、他の消化管（食道や小腸）に関連

する病気も積極的に診断・治療しています。また、最近では咽頭・喉頭領域の病気も診療しています。今回は当センターの最近の主な診療内容について部位別にご紹介いたします。

咽頭・喉頭および食道疾患：

この領域の癌、特に咽頭・喉頭癌は、以前は早期発見が非常に困難でした。ところが近年、特殊な内視鏡（NBI）を用いて観察することで微小な早期癌も診断できるようになりました。当センターでも大きさ数mm程の早期癌を発見できるようになり内視鏡治療も可能となりました。この領域では食道も含め、50歳以上の男性で喫煙と飲酒量の多い人では一般の人々に比べ実に数十倍も癌になりやすいことがわかっています。思い当たられる方は是非とも一度当科にて検査を受けられることをお勧めいたします（私も受けました）。

胃疾患：

胃の疾患はさまざまですが、中でも日本人に多いのはやはり胃癌です。当センターでは従来から四国でも有数の毎年150例を超える胃癌の診療を行っています。以前は2cmを超えるような大きな早期癌

は内視鏡治療困難でしたが、今日では特殊な治療器具を用いれば5cmを超えるような病変でも内視鏡治療（ESD）可能となりました。ESDには非常に熟練した内視鏡技術が必要ですが、当センターでも技術を習得し大きな病変でも積極的に内視鏡治療を行っています。

小腸疾患：

消化管の中で小腸は最も診断が困難な部位とされていましたが、近年、カプセル内視鏡やダブルバルーン内視鏡といった新たな小腸内視鏡機器の登場により、小腸の病気の診断・治療が飛躍的に向上してきています。当センターでも最近開発されたシングルバルーン小腸内視鏡を導入し、さまざまな小腸疾患の診断・治療に利用しています。

大腸疾患：

近年、大腸癌は急増し、癌死因では女性の第1位となり男性でも数年後にはトップになるといわれています。このため、拡大内視鏡や超音波内視鏡などを併用した前癌病変である大腸病変の早期発見・切除が重要といえます。大腸内視鏡検査は前処置が煩雑ですが、当センターでは高齢者（特に一人暮らしの老人）や遠方の患者様に配慮した一泊検査入院を行っています。また、数日間の短期入院で内視鏡治療も可能です。癌以外にも大腸にはさまざまな病気がありますが、中には原因不明の炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病など）もあります。これらの疾患は若年者に多く、慢性的な腹痛・下痢・血便などを伴います。また、診断が遅れると難治性となります。当センターでは炎症性腸疾患専門外来も開設していますので思い当たる方はご相談ください。

消化管の病気はさまざまであり、症状のみでは診断できないことも少なくありません。胃腸センターではそれぞれの部位に応じた最新の機械にて診断・治療を行っていますので、消化器症状が気になる方は一度受診してみてください。

病院機能評価認定更新

病院の質の向上を目的として、「日本医療機能評価機構」という第三者機関が中立的な立場から病院の機能を評価しています。この制度は1995年に始まり、現在では8892病院のうち2452病院が認定されていますが、当院は1997年に全国で11番目に認定されました。以後5年ごとに更新のための再評価を受けていますが、昨年9月、医師、看護師、事務担当者あわせて7名のサーベイヤー（評価者）による3日間にわたる審査を受けました。大きく分けて6つの領域、合計532の項目にわたり細かくチェックを受けましたが、病院ではこのためにチームを作り職員全員で取り組み準備を重ね、今回も見事に認定されました。今後も引き続き患者の皆様へ、よりよい医療が提供できるよう取り組んでいきたいと思っています。



第5回 地域医療連携フォーラム開催

テーマ：**地域医療連携による脳卒中のトータルケア**
～これからの脳卒中診療～

日時：2008年7月6日（日）13時開演
場所：愛媛県県民文化会館 サブホール
主題：地域医療連携による超急性期から回復期までの脳卒中入院診療と在宅医療の質の向上
○シンポジウム『松山医療圏における脳卒中診療の現状と展望』
○報告『愛PLA netの現状について』
主催：松山赤十字病院
定員：1,000名程度
入場料：無料（どなたでも参加いただけます）

一人でも多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日赤の緋寒桜を見にゆかむ 夏井いつき



（夏井いつき句集『伊月集』所収。）

今年も正面玄関に椿寒桜が咲きました。昭和56年、当院の3号館完成時に地元の有志の方から贈られたもので、以降毎年2月下旬頃に開花し、一足早く春を運んでくれています。当地の桜前線上陸が3月下旬頃ですので、この椿寒桜は1ヶ月以上も早く開花し、長く楽しませてくれます。

（平成20年3月12日撮影）